

Arche21

鹿児島県立沖永良部高等学校 【進路通信】

三流は人の話を聞かない。

二流は人の話を聞く。

一流は人の話を聞いて実行する。

超一流は人の話を聞いて工夫する。

羽生善治（将棋棋士）

「面接」で勝負できますか？

入試に限らず、これからの人生で「面接」を受ける場面は少なからずある。面接には、他の選考とは決定的に異なる点がある。それは、相手が目の前の「人」であることだ。想定できる質問がある一方、全く予想がつかない面もある。回答に対する突っ込んだ質問が繰り返される場合もあり、個人の総合的な能力が試される試験ともいえるだろう。



* 「人」が相手。自分の言葉で表現する。

面接では意欲・適性・社会性・人間性などがチェックされる。話している内容にブレがないか、自分の言葉で話しているか、人としてマナーや態度は備わっているかなど、受験生の資質を面接者は見ている。面接練習をするに当たっては、自分ときっちり向かい合っ

て考え、自分の言葉で表現できるようにしておこう。実際の面接は、調査書・推薦書や面接カードの内容に基づいて行われるため、慎重かつ丁寧に記載し、その内容は覚えておくことが必要だ。アドミッションポリシーの「求める学生像」や企業の「求める人材」の視点から審査されることになるため、あらためて確認しておくこと。就職面接であれば企業研究は必須である。

* 「個人面接」と「集団面接」

面接の形式には大きく2つに分かれる。個人面接では、面接者の視線を一手に受ける緊張感がある。一方、グループ面接では、他の受験生との比較を自分自身でしてしまい、焦りが生まれるなどのプレッシャーがかかる。いずれも場の雰囲気のにまれずに冷静に対応できるよう、繰り返し練習しよう。普段あまり接点のない先生との練習が場慣れには効果的だ。

* 必ず聞かれる「志望理由」と「抱負」

質問は、一般質問と学科に関する質問、口頭試問の3つに大別される。

一般質問では、志望理由・大学で学びたいこと・抱負・将来の進路と希望・高校生活の思い出・最近読んだ本などの質問が中心。中でも、志望理由と抱負については、まず間違いなく問われる。志望理由には明確な答えを用意し、過去→現在→未来の時間軸がつながるように回答を用意しておこう。

口頭試問は、面接者がその場で教科関連の質問を出し、受験者がその場で答えるものだ。質問は学科関連の教科の基礎的な知識や常識を問うもの、面接前に受けた小論文や講義、学力試験に関連するものが多い。図やグラフを示したり、簡単な計算や実験をさせたり、計算の場合はホワイトボードを使用したりもする。

* 面接の評価で合否が分かれることも？

進学の場合、面接の評価方法は大学・学部によって異なるものの、主に①参考程度、②点数化、③段階評価、④点数化しないが重視、の大きく4つだ。②が最も多く、③が次いで多い。

例えば面接者3名のうち、2名がE評価をした場合には、他の調査書や小論文の成績が良くても不合格となるケースもある。最後は人物が見られる。大事な場面で、残念な結果にならぬよう普段から気をつけよう。

(螢雪時代より一部引用)



限界を超えろ！！

沖高振興事業

夏休み勉強合宿

8月2日(日)～5日(水)に3泊4日の日程で、和泊町研修センターで勉強合宿を実施しました。これは、両町から補助をいただいて沖高振興事業の一環として昨年度より行っているものです。対象は3年生で、希望した生徒は参加できます。今年の参加者は26名でした。一日のスケジュールは次の通りです。

6:00 起床後、清掃
6:30 朝の集い、朝食準備
7:00 朝食
8:00～ ★勉強開始
12:00 昼食
13:00～ ★勉強開始
17:00 タベの集い
17:15 風呂など
18:30 夕食
20:00～ ★勉強開始
22:30 勉強終了、諸連絡
23:00 就寝



(自習中の様子。それぞれ自分の課題に取り組む)

今年の新たな取り組み

「島キャンとのコラボ」

今年は、都市部からインターンシップで来島している大学生に協力してもらい勉強合宿を実施しました。これは、和泊町役場企画課の安田さん(沖高OB)の提案で実現しました。今回は、立教大学3年生の女子学生が参加し、大学生活について、大学での学びや受験勉強についてなど講話をしていただくとともに、英語と国語の質問や小論文や志望理由書作成のアドバイスなどもしていただくことができました。



(質問の様子)

<島キャン生の話より>

- *大学の勉強は、与えられた課題に取り組むのではなく、「課題を自分でみつけ」て、それについて「研究方法を自分で考え・工夫」しながら「課題の解決」を目指すもの。
- *大学ではもちろん勉強はする。けれど、受ける授業も時間割も自分で作成するので、それ以外の時間を自分の好きな事に好きなだけ打ち込める「人生の中で貴重な時間」だと思ふ。
- *高校3年の夏休みは400時間勉強した。
- *将来やりたい職業はなかったので、社会について広く学べる学部を選んだ。
- *興味が沸いたら、志望校は絶対見に行くべき！そこで学生生活を送る自分をイメージできると、勉強のモチベーションが変わってくる。

「受験は団体戦である」

今回、「みんなと一緒に頑張ったから最後まで頑張れた」「自分一人では無理だったと思う」という感想を述べる生徒が多くみられました。集団生活を通して、共に頑張る仲間との絆が深まるとともに「勉強は個人戦。しかし、受験は団体戦である」という言葉が本当の意味で理解できたと思います。

「限界」を自分で決めていないか？

午前中4時間、午後4時間、夕食後に2時間半。トータル10時間以上の勉強を毎日…。これまで経験したことのない勉強量に「絶対無理！無理に決まっている」「できる気がしない」と愚痴をこぼしていた生徒がほとんどでしたが、終えてみると「やればできることが分かった」「この先も頑張れると思う」と充実した表情で語ってくれました。

これは、部活動でも同じことが言えると思います。「できるはずがない」と思っているけど、やってみると(苦しかったけど)何とかクリアできた…そんな経験をこの夏休みにした生徒も多いのでは？

「無理だ…」と思うとき、実は限界を自分で決めてしまっていることが多いのかもしれない。やる前から諦める、やろうとしない…これは自分が大きく成長するキッカケを逃しています。

さて、長い2学期が始まります。さらに限界を打ち破るべく、どんどんチャレンジしていきましょう！